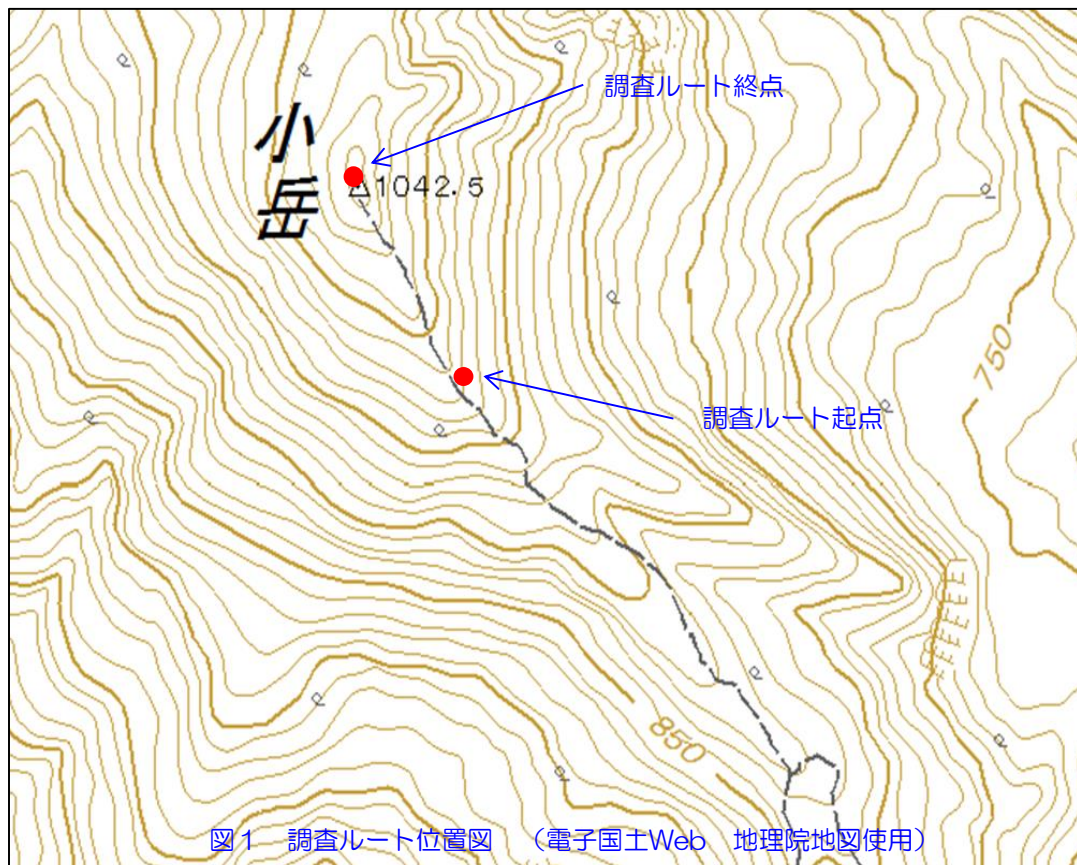


ID ^{注1)}	241208	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	—	保管場所 ^{注1)}		前回ID	231208
報告書名称 /調査名称	令和6年度 小岳のハイマツ群落におけるマツノクロシハバチの生息状況調査							発行年月/報告年月	
								2024年 10月	
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター			委託機関					
調査開始年	2007年 9月	調査期間	2024年 10月	～	2024年 10月				
調査頻度 ^{注2)}	毎年 1 回	調査時期 ^{注2)}	— — 秋						
モニタリング計画	2022年7月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡA	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1)		
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法						
☐ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☐ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり			<p>■目的 ハイマツの葉を食害するマツノクロシハバチの防除手段を検討する上での基礎資料として、小岳山頂一帯に生育するハイマツ群落でハバチ類の発生状況を記録する。</p> <p>■調査地・調査方法 小岳山頂に至る登山道沿いで最初にハイマツ立木が見られる箇所（N40° 25' 51.23" /E140° 11' 56.81" 標高976m：写真1）から小岳山頂（N40° 25' 57.99" /E140° 11' 52.08" 標高1042.5m：写真2）まで約250mの登山道を調査ルートとして設定し（図1）、ルートの左右約2mの範囲に生息するハバチ類の幼虫の集団数をカウントする。発生数が少なく、可能であれば個体数まで記録する。 幼虫を確認した箇所は緯度経度を記録し、図面上にプロットする。調査ルート外のハイマツについては、登山道上から8倍の双眼鏡を使用して加害状況を確認する。ルート外の被害箇所については、植生保護の観点から緯度経度の計測は行わず、ルート上から確認した位置を図面上に記録するのみとする。</p> <p>■調査時期 マツノクロシハバチの食害ピーク時に合わせ、9～10月の秋期に1回実施する。</p>						
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>									
結果概要（スペースに収まるように入力してください）									
<p>令和6年10月17日に現地調査を行ったところ、ハバチ類の幼虫は見つからず、ハイマツの葉が食害により枯死している様子も見受けられなかった。今年はハイマツに被害を及ぼす程度のハバチ類の大発生は起こらなかったものと推測される。</p>									
									
写真－1 調査ルート付近のハイマツ1			写真－2 調査ルート付近のハイマツ2						
問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL：0185-79-1003 ≪原本（データ）の帰属について≫								

備考



※参考写真データ

調査ルート外のハイマツについて、8倍の双眼鏡による目視調査及び高倍率デジタルカメラを用いて広角撮影と倍率を高くして同箇所を撮影、さらにパソコンのモニターでの確認も行った。



写真-3 登山道から双眼鏡による目視の様子



写真-4 登山道からハイマツ個体群を広角で撮影



写真-5 登山道から他のハイマツ個体群を広角で撮影



写真-6 写真-5の写真を高倍率で撮影